

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	51	学校名	恵那農業高等学校
------	----	-----	----------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	農業を学び、農業で学ぶことができる東濃地域の農業高校として 地域課題の解決を目指す実践的な学びを通して 地域社会の担い手となる自覚の開花を目指す学校		
学校教育目標 (教育方針)	(1) 生徒一人一人が持つ可能性を引き出し、個性を最大限に伸ばす指導に努める。 (2) 社会人として必要な基礎・基本を身に付けさせ、自立した人間を育てる指導に努める。		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく元気で、しっかりあいさつができる生徒 ・規律を守り、自らの行動に責任の持てる生徒 ・地域から信頼され、地域から愛され、地域と共に歩む生徒 ・地域社会の発展、地域産業の発展に貢献できる生徒 	
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の農業のスペシャリストを目指して、より高度な専門性の定着を行う ・基礎・基本の徹底を図り、生徒が持つ特性や可能性を最大限に伸ばす指導を実施する ・日々の授業を大切に、学習活動を様々な角度から適切に評価する 	
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学び自ら考え、他者と協働しながら主体的に学びたい生徒 ・生命体を扱う農業に関心があり、生命の尊さや豊かな心を持つ生徒 ・地域を愛し、地域と連携した活動に興味を持つ生徒 	
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・授業形態や指導方法を工夫し、肯定的な評価をすることで生徒のやる気を引き出しているが、自主的な学習態度の定着と学力の向上に充分にはつながっていない ・集団に属することで起こる人間関係トラブルがある。それらに対する個別の対応、教員同士の情報共有、外部との連携等が不十分なところがある ・進路に向けた活動において目的が明確に理解されておらず、効果が十分に発揮されていないことがある ・生徒が専門力を生かして「誰かの助けになりたい」という観点から学びを深められているが、さらに科学性の追求と、生徒相互の学び合いが必要である ・熱心に取り組む職員、生徒の負担が大きい。 		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学習指導	学習環境を整え、自主的な学習態度を育成し自己教育力の向上を図ります	
	生徒指導	共感的な生徒理解に努め、他者を思いやる心、自らの行動に責任を持ち正しく判断できる態度を育成します	
	進路指導	自己の在り方や生き方を考え、主体的に進路選択が出来る能力と態度を育成します	
	その他	生徒と共に活動する中で、部活動の活性化を図り、健康な心身と協調性を養います 地域社会の発展に貢献できる社会人を育成します。また、これを具現化するため学校運営協議会等による適切な助言を受けながら生徒支援を行います	

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的な取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学習指導	①学習指導と授業研究・職員研修の充実に努めます。	施策Ⅱ-8	生徒の実態に応じた授業が できているかの検証ができたか	①指導要領に対応した、公平で形式的な評価の方法について研究した。 ○生徒の実態に応じた指導法、評価方法を研究。教科、学科間での情報共有をした。	B	●学習評価について、生徒にとってわかりやすい基準と場面等を学校として研究していく必要がある。 ○基礎学力向上、学習の習慣化の目的で活用したスタンプについては今後も継続し、学校全体での活用法の検討を更にすすめた。 ○タブレットの導入、ICT機器を充実させ多くの授業で活用できた。また、活用する中で工夫が見られ、教員間での情報交換も多くなりました。 ○ICT機器の管理について、効率的な管理・運用ができた。	B
	②学習の定着と基礎学力の定着に努めます。	施策Ⅱ-8	基礎学力定着のための教材を 効果的に活用し、改善に向けた検証ができたか	②基礎学力定着のため、自主学習を促す取り組みを各教科と学科間で協力して研究した。 ○教材を効果的に活用し、基礎学力向上さらには自主学習に向かう支援の手立てを教科・学科を超えて研究・実践をした。			
	③情報ネットワークと機器を生かし、生徒の主体的な学びを育てる基盤を構築し、運用についての研究と実践をすすめます。	施策Ⅱ-9	ICTを活用した授業ができたか	③機器の点検と活用に関する注意喚起 ○機器運用において、コンプライアンスを守り、かつ正確で効率的な方法を研究・実践をした。			
生徒指導	①生徒への声かけや対話を通した個と集団への働きかけにより、自己理解力やコミュニケーション力、人間関係形成力など社会的資質・能力を育てます。(発達支持的生徒指導)	施策Ⅰ-1	職員の共通理解・共通実践ができたか	①担任等への情報提供とLHR等の有効活用 ○生徒に対する働きかけに必要な情報提供、LHR活動を実施する。	B	○担任に対して、気になる生徒へのアプローチの依頼をし、個別対応につなげることができた。 ●クラス独自のLHRの数が限られており、実施できる時期が限られてしまうため、有効な活動を提供することができなかった。 ○恵那警察署による薬物乱用防止、情報モラル教育、闇バイトへの注意喚起に関する講話を実施することができた。 ●これまで実施していた性教育が、3年に1回しか実施できなくなり、代わりとなる講話の企画・実施ができなかった。 ○教育相談係を中心とし、気になる生徒の情報について共有することができた。 ○相談内容に応じて、SCとS相に振り分けを行い、教育相談を充実させることができた。 ○進路指導部と連携を図り、指導に配慮を要する生徒の手帳取得等、専門機関と連携した対応ができた。 ●指導に配慮を要すると判断した生徒の保護者との共通理解を図ることが難しいケースが多い。	B
	②いじめ防止、SOSの出し方(自殺予防)、薬物乱用防止、情報モラル教育を実施し未然防止に努めます。(課題予防的生徒指導(課題未然防止教育))	施策Ⅰ-1	各種防止教育を実施できたか	②各種課題の未然防止教育の実施 ○外部講師による講話を実施し、未然防止教育を実施する。			
	③生徒の小さな変化を見逃さず、問題の早期発見と組織的な早期対応に努めます。(課題予防的生徒指導(課題早期発見対応))	施策Ⅰ-3	教育相談、気づきシートを活用して、組織を超えて生徒情報を共有できたか	③組織的な生徒指導、教育相談の充実 ○教育相談活動の充実により、生徒の情報共有と組織対応を図る。			
	④指導に特別な配慮を要する生徒に対する個別支援、校外の専門機関と連携した対応に努めます。(困難課題対応的生徒指導)	施策Ⅰ-3	個別の対応や専門機関との連携ができたか	④特別支援教育の充実と校外との連携した対応 ○指導に配慮を要する生徒の個別支援、校外との連携を図る。			
進路指導	①体験的な学習を通して、正しい勤労観や職業観の育成を図ります。	施策Ⅱ-13	体験的な進路学習を実施できたか	①3年間を通したキャリア教育を目的にLHRを活用したり企業・大学見学を実施した。	B	○就職希望者は、近年の求人数増加や高卒就職者の減少傾向に支えられたこともあり、ほとんどが希望に沿った就職先から内定をいただくことができた。 ○進学希望者は、入試方法の多様化によって総合型選抜利用者が増加し、早期に希望の進学先に合格する生徒が多くなった。 ○全職員の協力によって個々に対応した指導を実施することができた。 ●進路行事や進路LHRの目的を学年会や生徒に明確に示しきれなかった。 ●上位層の学力、下位層の基礎力向上への対策が必要と考える。	B
	②コミュニケーション能力の育成、特に自発的な挨拶を指導します。	施策Ⅰ-1	職員が挨拶の範を示すことができたか	②継続的なマナー指導と主体性を育む進路実現への取り組みを支援した。			
	③地元企業を中心に、また学科の専門性を活かすことができる求人獲得を行います。	施策Ⅱ-14	学科が「活かしてほしい専門性」を正しく知り、生かすことができたか	③地元企業見学や情報交換会に参加するなど企業と連絡を密にし、個々の希望に沿った進路決定を支援した。			
	④進学希望者(特に四大・看護医療系)と公務員希望者に対する指導の充実を図ります。	施策Ⅱ-8	四大・看護系について、進路ごと、生徒ごとの個別の補習体制を整えることができたか	④四大・看護・公務員希望者を対象にした説明会、外部講師の講習や講座、外部模試を実施した。			
その他	①部活動を有意義なものにし、生徒が積極的に参加する活動の推進に努めます。	施策Ⅳ-24	部活動ガイドラインを遵守し、生徒が主体的に活動できる方策をとったか	①限られた日数・時間の中で活動し結果につなげることができた。	B	○日数時間はガイドラインを超えることなく適正に実施することができた。 ●加入率の低さが問題だと考える。	B
	②「地域から信頼され、地域から愛され、地域と共に歩む」農業高校を目指すとともに、地域を愛し、地域の発展に貢献できる人材を育成します。	施策Ⅰ-4	地域の発展に貢献できる研究テーマを設定して組織的に活動できたか	②科目「地域資源活用」「課題研究」で地域と連携して授業を進めることができた。		●地域と連携はできたが、組織的に活動ができなかった。	
	③課題研究活動等を通して、地域資源を活用し、地域が抱える農業、環境分野での課題を設定し、主体的、積極的に解決していく能力や態度を育成します。	施策Ⅱ-14	地域の方々や交流する姿勢を育み、科学的な知見を持って考察ができたか	③地域と方々と商品開発などで連携することができた。		●科学的知見の考察ができていないため、今後改善が必要。	
	④「自らの命は自ら守る」という意識を育み、災害安全、交通安全、情報モラルを含む生活安全に関する安全教育の充実を図ります。	施策Ⅲ-19	より実情に即した安全教育を実施することができたか	④地元の消防団や恵那市役所と協力し防災教育の充実を図る事ができた。		○防災教育は市と連携して避難所設営訓練を実施できた。 ○生徒備蓄品の見直しを実施できた。	

来年度に向けての改善方策等 実施日：令和8年1月19日

目指すべき方向について共通理解のもと、教科の学習に限らず、生徒の主体性を学校全体の学びにおいて職員全体で研究するとともに、生徒に理解させ、主体的な態度を引き出す。
生徒指導においては、情報の共有を大切に、生徒への声かけや対話を通した個と集団への働きかけ、ソーシャルスキルトレーニングなどの方策により、自己理解力やコミュニケーション力、人間関係形成力など社会的資質・能力を育てる。
進路指導では、地元企業や、進学(特に四大・看護医療系)と公務員など職場や学校の見学や体験の機会を1年生のうちから設定し、体験的な学習を通して、キャリア教育を進め、正しい勤労観や職業観をもって自ら進路選択が出来る力の育成を図る。また進路指導において力を高めるための対策を検討する。
課題研究活動等を通して、地域が抱える農業や環境分野あるいは流通分野での課題を生徒が見つけ、主体的、積極的に解決していく能力や態度を学校全体で支援する。
本校が「地域から信頼され、地域から愛され、地域と共に歩む農業高校」となることを目指すとともに、生徒が学校および地域を愛し、地域の発展に貢献できる人材となるよう育成する。

学校関係者評価 実施日：令和8年1月27日

・地域課題に取り組み、それをまとめ、諸々の機会を発表する。このような経験、このような機会に鍛えられ、成長している。
・生徒会活動において、自分たちの生活を自分たちで暮らしたりやすくなるための活動として公約を提言し、取り組んでいる。このような活動は社会に出た時に役立つ経験である。
・地元を大事にし、地域に密着した活動から、他ではなかなかない農高ブランドを作り上げている。
・あいさつを大事にし、そこからコミュニケーションが繋がっていきと考えると、日々の積み重ねが大切である。
・イベント等において、良い経験の場がある。経験をし、学び、継続し、良い仲間と巡り合う、そのひとつひとつが成長につながっている。
・どういった生徒を育てたいか、何を大事にするのか職員の中で共有することを大切にしてほしい。
・生徒本人が何をがんばり、何をやりたいのかをしっかりと考え、取り組むことができているかを検証しながら探究学習を進めてほしい。